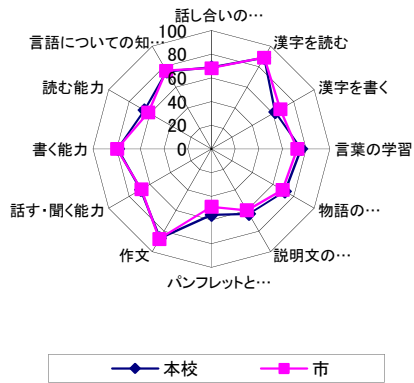


宇都宮市立富士見小学校 第6学年【国語】問題の内容別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度	
		本校	市
問題の内容別	話し合いの内容を聞き取る	68.8	68.2
	漢字を読む	89.0	89.0
	漢字を書く	62.1	67.0
	言葉の学習	75.7	72.3
	物語の内容を読み取る	71.6	69.2
	説明文の内容を読み取る	63.4	59.8
	パンフレットと話し合いの内容を読み取る	55.6	48.9
	作文	87.0	87.8
観点別	話す・聞く能力	68.8	68.2
	書く能力	79.0	79.5
	読む能力	65.3	61.5
	言語についての知識・理解・技能	75.6	76.2



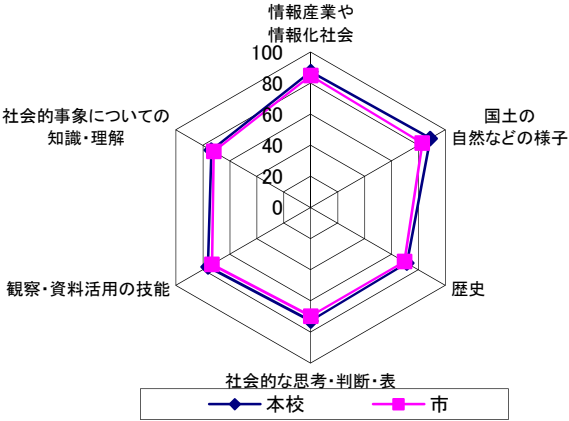
★指導の工夫と改善

問題の内容	本年度の状況	今後の指導の重点
話し合いの内容を聞き取る	・本領域全体の正答率は68.8%で、市の正答率68.2%と、ほとんど差は見られなかった。話し手の意図を考えながら、話の内容を聞きとる設問では、正答率96.1%と高い正答率だったが、司会者の役割を理解して、適切な言葉遣いで話すことができるかを問う設問の正答率は市の平均を下回っていた。	・日常生活の中で、教師や友達の話をしっかり聞き、内容を互いに確認し合う活動を意図的に行うようにする。また、司会者の役割を全員が経験できるように、話し合い活動を積極的に取り入れるとともに、司会者として適切な言葉遣いができるように支援をする。
漢字	・漢字については「読み」の正答率が93.6%と市の正答率を3・2ポイント上回ったが、「書く」の正答率は68.8%と市の正答率をわずかに下回った。特に5年生配当漢字の「往復」、「耕す」の正答率は、それぞれ52.0%、42.6%と低かった。	・日頃より、漢字の読み書きに触れる機会を多くもたせ、漢字を身近なものと感じさせていく。書く活動では、正しい漢字を書くとともに、熟語や同音異義語などにも積極的に触れさせ、文書の中で使えるように支援する。
言葉の学習	・本領域全体の正答率は75.7%で、市の正答率と比べを3.4ポイント上回っていた。俳句についての理解を問う設問では正答率が91.2%と高く、三字熟語の構成についても正答率が84.3%と市の正答率を4.6ポイント上回った。また、敬語の使い方は、尊敬語・謙譲語ともに、市の正答率を約5ポイント上回った。	・俳句や三字熟語などには、今後も意識的に触れさせていく。敬語については、尊敬語・謙譲語の違いに意識させ、意味の違いを理解させていく。また、生活の中でも使えるように、ことばの時間などものの学習を有効に活用していく。
物語の内容を読み取る	・本領域全体の正答率は71.6%で、市の正答率と比べを2.4ポイント上回っていた。登場人物の心情を読み取る設問では、正答率が100%の問題もあった。登場人物の様子を読み取る設問の正答率は43.1%と低く、市の正答率を5.9ポイント下回った。場面の情景を思い浮かべながら登場人物の心情を読み取る設問の正答率は76.5%で市の正答率を5.8ポイント上回った。	・今後も読書指導を充実させ、たくさんの良い本と出会う機会を多く持たせていく。また、国語の学習では、物語教材の人物の心情の変化を読み取る活動に時間をかけるなど、実態に応じた授業の展開を心掛けていく。
説明文の内容を読み取る	・本領域全体の正答率は63.4%で、市の正答率と比べを3.6ポイント上回っていた。文章の内容を正確に読み取る設問では6・2～8.5ポイント市の正答率を上回った。文章の構成を的確に押さえながら読み取る設問の正答率は64.7%で市の正答率を3.4ポイント下回った。	・意図的に説明文に触れさせる機会をもつために、校内読書週間などを利用しながら、説明文を読むように支援する。また、形式段落に番号をふったり、小段落ごとに小見出しをつけたり、内容を要約したりする活動を積み重ね、段落構成を理解し、内容に対して自分の意見が持てるような力を身につけさせていけるよう支援を心掛ける。
パンフレットと話し合いの内容を読み取る	・本領域全体の正答率は55.6%で、市の正答率48.9%を上回った。資料と話し合いの内容を正しく読み取って考える設問、資料と話し合いの内容を正しく読み取り、適切に文を書き加える設問とともに、市の文章の内容を正確に読み取る設問では6・2～8.5ポイント市の正答率を上回った。文章の構成を的確に押さえながら読み取る設問の正答率は64.7%で市の正答率を3.4ポイント下	・パンフレットを作ることは、国語の授業の他にも実施している。今後も資料を集め適切な文章を書き加えることを基本としたパンフレット作りを継続させていきたい。
作文	・本領域全体の正答率は87.0%で、市の正答率87.8%とほとんど変わりなかった。指定された長さで文章を書くこと91.2%、2段落構成で文章を書くこと74.5%の正答率だった。自分の意見をどちらに賛成か書くこと97.1%と高い正答率だったが、その理由を書くことの正答率は85.7%だった。	・指定された長さで文書を書くことは、あまり慣れていない活動なので、朝の学習や日記指導を通して、字数を意識した作文を書けるよう支援する。また、自分の意見の根拠を明確に文章に表すことができるような支援をしていく。

宇都宮市立富士見小学校 第6学年【社会】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度	
		本校	市
領域別	情報産業や情報化社会	87.3	84.7
	国土の自然などの様子	88.7	82.7
	歴史	71.3	69.5
観点別	社会的な思考・判断・表現	72.9	69.9
	観察・資料活用・技能	76.3	73.3
	社会的事象についての知識・理解	73.7	71.9



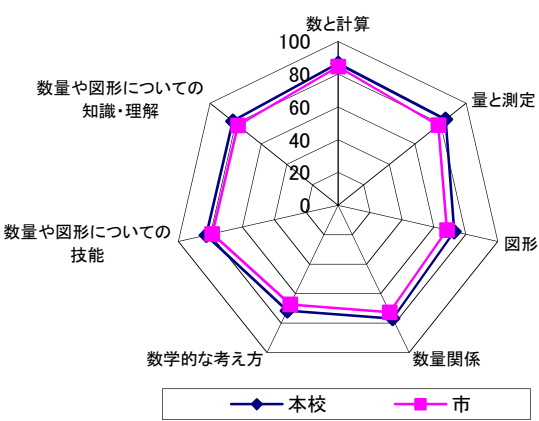
★指導の工夫と改善

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
情報産業や情報化社会	・本領域全体の正答率は87.3%と市の正答率82.7%を2.6ポイント上回った。情報ネットワークのついて、コンビニエンスストアを例に考察する設問の正答率は88.3%と市の正答率77.9%を約10ポイント近く上回った。また、ホームページを作成する際の注意する内容について判断する設問では、正答率が91.2%と高くなっていた。	・普段からニュースをみたり新聞を読んだりするなど、様々なメディアに触れる機会をもたせるとともに、インターネットなどの正しい利用の仕方についても引き続き指導をし、正しい情報の使い手になれるよう支援をする。
国土の自然などの様子	・本領域全体の正答率は88.7%と市の正答率82.7%平均を6.0ポイント上回った。資料を読み取り、林業の現状を把握する設問では正答率が91.2%と高い正答率になった。また、環境を守る取り組みについて判断する設問の正答率は88.3%と市の正答率75.6%を大きく上回った。	・資料分析の力を高めるために、意図的に多くの資料を用意し、必要な資料の取捨選択ができるような活動を授業の中で実践するとともに、資料の効果的な活用についても検討していく。
歴史	・本領域全体の正答率は71.3%で市の正答率69.5%をわずかに上回った。時代別にみても、すべての時代について正答率は市の正答率を上回っていたが、設問別にみると、室町時代に活躍した人物の理解をもとに、代表的な建物を把握する設問の正答率は91.2%と特に高くなった。大日本帝国憲法にの理解については、38.2%と市の正答率より1.8ポイント低くなった。	・歴史に関する本やテレビ番組などに触れることをきっかけに、歴史に興味・関心をより高めるようにしていく。また、文化や出来事などを系統的に理解する力を高めるために、授業の中での効果的な資料の活用方法を検討していく。

宇都宮市立富士見小学校 第6学年【算数】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度	
		本校	市
領域別	数と計算	86.5	84.6
	量と測定	83.9	78.3
	図形	72.7	68.2
	数量関係	76.9	72.6
観点別	数学的な考え方	71.5	67.3
	数量や図形についての技能	82.6	78.9
	数量や図形についての知識・理解	82.2	78.2



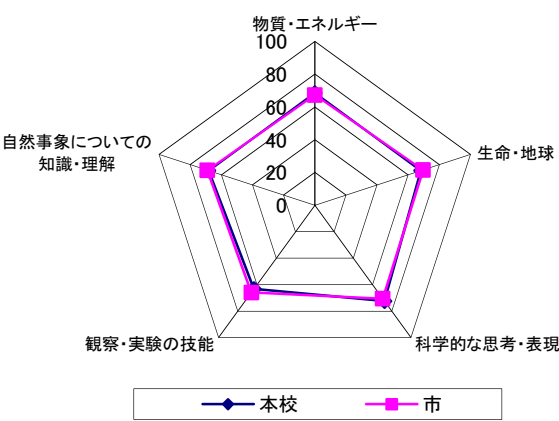
★指導の工夫と改善

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	・本領域の正答率は86.5%で、市平均より1.9ポイント高くなっている。 ・ほとんどの問題で市平均を上回ったが、唯一、分数の除法の文章問題を表した図を求める問題で0.8ポイント下回った。	・基礎的な計算については、今後も授業だけではなく朝の学習や家庭学習で繰り返し行っていく。特に分数の計算については、重点的に指導していく必要がある。分数の除法計算を数直線や図、式に表して考えさせる活動を充実させ、理解を深めさせるようにする。
量と測定	・本領域の正答率は83.9%で、市平均より5.6ポイント高くなっている。 ・ほとんどの問題で市平均を上回った。	・体積の学習では、解決の見通しを自分の言葉で説明させた後、図や式で表し課題を解決していけるように指導していく。速さや道のりの問題については、求め方を十分に理解させた後、問題練習によって習熟を図っていく。特に、時速・分速・秒速の関係については量的なイメージを持たせつつ、習熟を図るようにする。
図形	・本領域の正答率は72.7%で、市平均より4.5ポイント高くなっている。 ・ほとんどの問題で市平均を上回ったが、線対称な図形や点対称な図形の対応する点を見つける問題で、それぞれ1.2ポイント下回った。	・今後も具体的な操作活動を取り入れながら図形の特徴を理解させていくようにする。特に対称な図形の対応する点を見つける問題は、具体物を取り入れたり、作図させたりして、特徴を見いだせるような指導の工夫を図る。
数量関係	・本領域の正答率は76.9%で、市平均より4.3ポイント高くなっている。 ・ほとんどの問題で市平均を上回ったが、比の値を求める問題と、比を使って使う量を求める問題で3.0ポイント、4.7ポイント下回った。	・計算の途中の式をきちんと書かせるよう一人一人丁寧に指導していく。特に比の問題についても普段の生活に関連付けて習熟を図るようにする。

宇都宮市立富士見小学校 第6学年【理科】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度	
		本校	市
領域別	物質・エネルギー	68.5	67.3
	生命・地球	68.2	69.5
観点別	科学的な思考・表現	72.5	70.6
	観察・実験の技能	63.3	65.9
	自然事象についての知識・理解	68.2	69.0



★指導の工夫と改善

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
物質・エネルギー	・本領域の正答率は68.5%で市平均67.3%と比べて1.2ポイント高くなっている。 ・内容を見ると、「ものの燃え方と空気」「ものとのけ方」で上回っていた。しかし、「ふりこのきまり」「水よう液の性質とはたらき」は下回った。	・全体的には、理科に関心が向くような話題や生活に生きる理科などについて知識を増やすようにする。また、自然現象について理由を文章等で表現する力も育てるようにする。さらに、「ふりこのきまり」が下回っていたことから、実験・観察において、条件に着目させて実験を計画を考えさせたり、結果を的確に処理して考察させたりする活動を大切に取り扱い、条件を制御する能力を育てていくようにする。
生命・地球	・本領域の正答率は68.2%で市平均69.5%と比べて1.3ポイント低くなっている。 ・内容を見ると、「人のたんじょう」「太陽と月」「生き物のくらしと環境」で上回っていた。しかし、「動物のからだのはたらき」で大きく下回った。	・日頃から理科に関心が向くような話題や生活に生きる理科などについて知識を増やすようにする。特に、「動物のからだのはたらき」が大きく下回っていたことから、消化、吸収、排出及び循環のはたらきを知るとともに、各器官が相互にかかわり合って生命を維持しているという見方や考え方を持つことができるように指導の工夫を図る。さらに、保健体育と関係づけ、身の周りの現象に関心が向くように配慮する。